

息子はニュージーランドで生まれました。1歳半から言葉が消え、2歳前に中度自閉症と診断されました。小学1年生のときに日本へ帰国。療育で靴ひもを結べるようになる等、指先のコントロールが上手になりました。支援学校でさまざまな経験をする中で日々成長し、自分の言葉で自己表現できるようになりました。

絵は小さなころから大好きでした。4年生のときに担任の先生から「本格的に絵を習わせてみたらどうですか？」と提案され、絵の教室に通うことになりました。現在、描きたい物を試行錯誤し、アドバイスを受けながら描いています。賞も少しずつ取れるようになり、絵に対する自信がついてきました。

この絵は息子が「きのこを描きたい」と言い、さまざまな種類のきのこで秋の夕暮れを描き上げました。これからもたくさんさんの素敵な絵を描いてもらいたいと思います。(母)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



勝又儀幸「みんな仲良く」

元々絵が好きでした。

30歳ごろから仕事が忙しくなり、油絵を中断して定年後に始めようと思っていました。しかし、パーキンソン病にかかったうえ、首を骨折してしまい、筆が持ちづらくなってしまいました。そんなときに、リハビリスタッフから「そんなに好きならやってみたらどうですか」と勧められ、塗り絵から始めてみました。この作品は今後も世界が平和で生活できるように思いを込めて描きました。これからは絵を通して似た境遇の人たちの力になれたらと思います。